

Interview

新時代の働き方

井上浩一
Koichi Inoue
弁護士



PROFILE 井上浩一 いのうえこういち

福岡県出身。2005年福岡市役所入庁。2015年在職中に司法試験予備試験に合格し、翌年、司法試験に合格。2017年福岡市役所を退職。2018年12月岡本総合法律事務所に入所。現在、弁護士として活躍中。小学4年生の長女と小学2年生の長男の父親。

今年の4月から「働き方改革関連法」が施行され、ドラマでも「働き方改革」がテーマとなり、話題となりました。新しい時代とともに、新たな働き方が求められていますが、働き方を変えるために私たち一人ひとりでは何ができるのでしょうか？

■転職を決心するまで

私は法学部を卒業後、2005年に福岡市役所に入庁しました。市役所では法律に携わる部署に6年間所属していましたが、組織内から法律相談を受けても分からないことが多く、自分の知識不足を痛感することがありました。ちょうどその頃、弁護士の方と一緒に働く機会があり、法律を駆使して物事を良い方向に進めていく仕事ぶりに憧れて、司法試験にチャレンジしてみたいと思うようになりました。

働きながら司法試験にチャレンジするには、まず予備試験に合格しなければならないため、効率よく勉強できるよう、過去問を何度も集中して繰り返し解くようにし、最初に受験してから3回目で運よく合格することができました。

いざ試験に合格できたものの、家族もいる中、公務員を辞めて本当に弁護士になるかはかなり悩みましたが、一度きりの人生で後悔しないよう、思い切って転職することを決心しました。

■長時間労働になりやすい今の仕事

弁護士は個人経営なので、勤務時間や有給休暇というものがなく、全て自分で調整しなければなりません。

その代わりに、やればやるだけ成果につながるという部分もあり、長時間労働になりがちです。

また、週の半分は関係者との懇親会もあります。子どもたちが起きている時間までに帰るようにしていますが、帰りが遅い日が多いので、長女からは「公務員の時の方が早く帰ってきてくれたから良かった」と言われてしまいました。(泣)

転職してちょうど半年になることもあり、自分自身のこれからの働き方を考えているところです。

■効率よく働くために意識していること

難しい仕事こそ、後回しにしないようにしています。経験のないこと、難しいことは、どのように着手していか分からず、つい後回しにしてしまいがちです。とりあえずメモだけでも作ってしまう、というイメージで、少しでも早く着手するよう意識しています。

また、勤務時間中に長時間移動することがあるので、メールや資料に目を通すなど、外でもできることは移動中や外出先で済ませてしまうことで、時間を無駄にしないよう工夫しています。スケジュールを立てるときも余裕を持たせることで、急に別の予定が入った時でも対応できるように心がけています。

■私生活を充実させるための工夫

週に1回は完全にオフの日を作り、子どもたちと映画やバーベキューなど遊びに行くようにしています。また、平日は食事を作ることができていないので、土日の朝食だけでも私が作るようにしています。

体を動かすことが好きなので、高校生の頃から続けているバスケットボールの練習に行くこともあります。今は月に2回程度しか参加できていませんが、週に1回は運動する機会を作り、仕事とのメリハリを付けるようにしていきたいです。



With kids



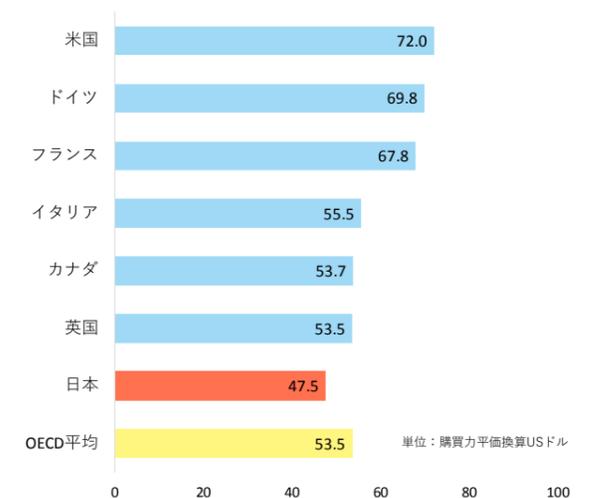
■難しい仕事こそ、後回しにしない。
とりあえずメモだけでも作る。

■時間を有効に使う。
移動中や外出先で、メールや資料を確認する。

■リスク管理をする。
余裕のあるスケジュールを立てて、急な対応も可能にしておく。

■私生活を充実させる。
週1回は完全オフの日を作る。
好きなことをして、仕事とのメリハリを付ける。

日本の労働生産性はG7(主要先進7カ国)で最下位



時間当たり労働生産性2017年
(就業1時間当たり付加価値)

出典：公益財団法人日本生産性本部
「労働生産性の国際比較2018」より作成

日本人は遅刻にはうるさいのに、
どうして終業時間には
ルーズなんだろう？

